

時事新報の編輯に關する書信にして、往々社員へ宛御送致の向も有之候得共宛名の社員不在の事ありて折角の報章も其用を爲さざるや寡からざれば斯る書信は一切時事新報編輯局宛にて御送付被下度候

時事新報定例

時事新報ハ一年三百六十五日一日モ休刊セズ其代價運送料廣告料ハ左ノ如シ
一 枚三錢 一箇月前金五十錢 三箇月前金一圓五十錢 六箇月前金三圓 一年前金六圓
○時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ送送スルモノニ限リ右定例ノ外ニ二月二十六日ノ後送料ヲ申受ケ

時事新報廣告料前金

Table with 3 columns: 一行二付, 一行三付, 一行四付. Rows include 一行一付, 一行二付, 一行三付, 一行四付, 一行五付, 一行六付, 一行七付, 一行八付, 一行九付, 一行十付.

時事新報

日本の工商業家に告ぐ 在英國 高橋 達

兵家の語に勝つて制するは彼を知り己を知るを要すとわれども兵事のみ獨り然るに非ずして商工の業亦此の如くならざるを左れば勝算を一社一局の内に畫して其利を千百里外の市場に制するに當りては正奇運轉の策容易に人の端睨するを得ざるの論と談たざる所なるが故に予輩實地に乏しき者傍らより之に喩を容れんとするは謂ゆる借越の次第にして人の誹りを免れざるからんかと信すれども然れども我國現時の狀勢たるや吾人同胞互に相告を相戒せしめて國の利福を計らざる可らざるの今日なれば徒に人の言を憚り我志を陳べざるも本旨ならざるを自認し一言以て日本工商業家に質す所あらんとするなり借越を我國近來の世潮と推測するに其現像の最も偉大にして我々在外の客を驚かす者は合本工商會社設立の企て是より聞かざるに昨二十年間の募集資本合計一億二千萬圓なりと(縱令へ名のみるるにもせよ)日本の如き貧小國にて殊に七八年來の不景氣、民間の疾苦未だ癒えざるの今日に斯る大金を突然工商業に吸収する事ともあらば國の經濟は果して如何に成往く可きや抑念に堪へず先年各地の士族達に其募券を本として一五百五十銀行を創設したる其結果は流動資本の額を増し一時經濟の運行を助けたるに反對に今は日本の市場より莫大の流動資本を減せんとするの舉なれば前途其事業の成否如何んに就ては豫め之に處するの覺悟あると大切なる可し素より斯る事業は對しては予輩決して不同意を唱へざるのみならず文明進歩人智開發の結果ならんとして偏よ之を悦ぶ者なれども借其悦びを永遠に保たんとは先づ其憂ふべく慮るべき者を察し之を避くるの用意工風必要あらんと信するが故に試に爰に其憂慮す可點點々々舉げんに

は事實に照らして判然たり而して起業者の盛んなるに當りては何種の事業と雖も起らざるを以て人々欣んで業なれば又必ず利益をたらざるを以て人々欣んで業に傾け金力悉く此一點に聚まり流動固着の兩資本互に權衡を失して之に欠け天候不時、凶歉の災を以てする時社會の購買力消費力俄に萎縮し精巧の器械其運轉を止めて努力者無業を苦むは必然なりと云へり鄙見を以てするに英國千八百四十七年の大不景氣を巖したる其原因は千八百二十九年スチーブン氏始てストックトン、マーリントンの間に鐵道と敷き好結果を奏したるより之に導き鐵道事業四方に起り爾來十餘年の其間には到る處に其熱盛んからざるなく株券の騰貴一層其狂瀾を助けて世の流動資本大抵鐵道事業に吸収せられ其際適々愛蘭に蝗害起り延て全國に及ぼして歳安に凶饑を告ぐ人民殆んど食ふに苦み反餉の結果遂に餓殺税則の廢棄を促し自由貿易の門是に於て開けたるは世人に記憶する所なる可し爾來今日に至るも同年十二月の金曜日、各店營業を中止し非常の騒ぎと騒したる其當日を暗黒金曜日と稱し、恐惶の災の記念となすに當時の慘狀想ひ見る可し日本に於ても今日の如く鐵道事業東西並び起るに際しては豫め後日の針路を察し其潮勢に處するの用意ある可きと大切なり

第二に日本は古來農を以て建國の本となしたる國柄かれば天候不時適々凶荒と下し學國饑饉を苦むの一事最も大患なりとす經濟學者の説に據れば温帯若くは熱帯に位專ら天恵に依り耕作と事とを國に在りては凡そ十年毎に天、時に其患と與へずして却て之に災害を下すを例となす者なれども平生天恵に慣れたる人民の常として平時聊かも不時の變に注意せず只管豊年に奢侈を極めて適々凶歉を會すれば餓死するを免れず之を彼の塞國の人民が平生學術の作用に依り又備荒手段を忽がせにせずして天災と遇るの趣に較ぶるに温帯帯天恵特殊の國民は斯る場合一層の難を蒙る者なりと云へり我日本は温帯至其の國土にして寒からず熱からず加ふるに地味豊饒の有様は歐米諸國の遙に及ばざる所ならんといふ雖も平生節儉の風に乏しく謂ゆる今日あるを知つて未だ明日あるを悟らざる者比々是なるが故に一朝若し凶年あらば彼等は如何にして之に處するの覺悟ありや予輩の憂ふる所なり

第三、擔當者技倆の巧拙如何んに就ては予輩局外より明りに其人を評する能はざれども近時諸工業器械等買入れの爲め英國に來遊する日本の人士に向ひ試み其所見を叩くに動もすれば曰ふ規模狭小の器械は製造力少くして運轉の費用殆んど大器械に殊ならず經濟上不利の次第なれば寧ろ多くの金を投するも宏大の器械を買入れ製造の規模を盛んにするは日本現今の急務とする所なりと是れ自から一説ならんといふ雖も予輩は全く之に同意する能はず譬ふるに資本は猶ほ兵の如く兵を帥ふるには別に其將ある可らず然るも日本の工商業家は此要點に着目せずして唯徒に資本と聚り器械を購へば事業立所に成る者なりとの虛想を懷き、正當なる事業家の爲めに其資本を供するの順序を取らずして豫め先づ資本を募り而して後之に着手す可き事業家の有無如何んを穿索する如死の逆節と求むるは本末前後の關係と誤る甚しと云はざる可らず工商業の成否利損は資本の多少より之に當る人物の能に原由するは明白の理なれども日本の起業者に殆んど此等の思想なれば怪しむに堪へず (未完)

來ル廿八日午後二時ヨリ京橋本挽町厚生館ニ於テ本會月次常會ヲ開設ス演說者左ノ如シ
演說者以テ肉ヲ貯藏スルノ實驗等 緒方正規君 横井信之君 演題未定

右之者都合ノ廢有之今回歸候ニ付自今當組ニ於テハ一切同人ニ關無之候條此處廣告候也

地所土藏附賣家 京橋區本八丁堀四丁目五番五合外二階七坪五合土藏二棟貸家十二坪右望ノ御方、當社ニ來談又ハ郵報ヲ乞フ 四月、神田區錦町一丁目 益 社

伊東 但來